

令和5年度事業 実施報告書

HTO2024.06.24

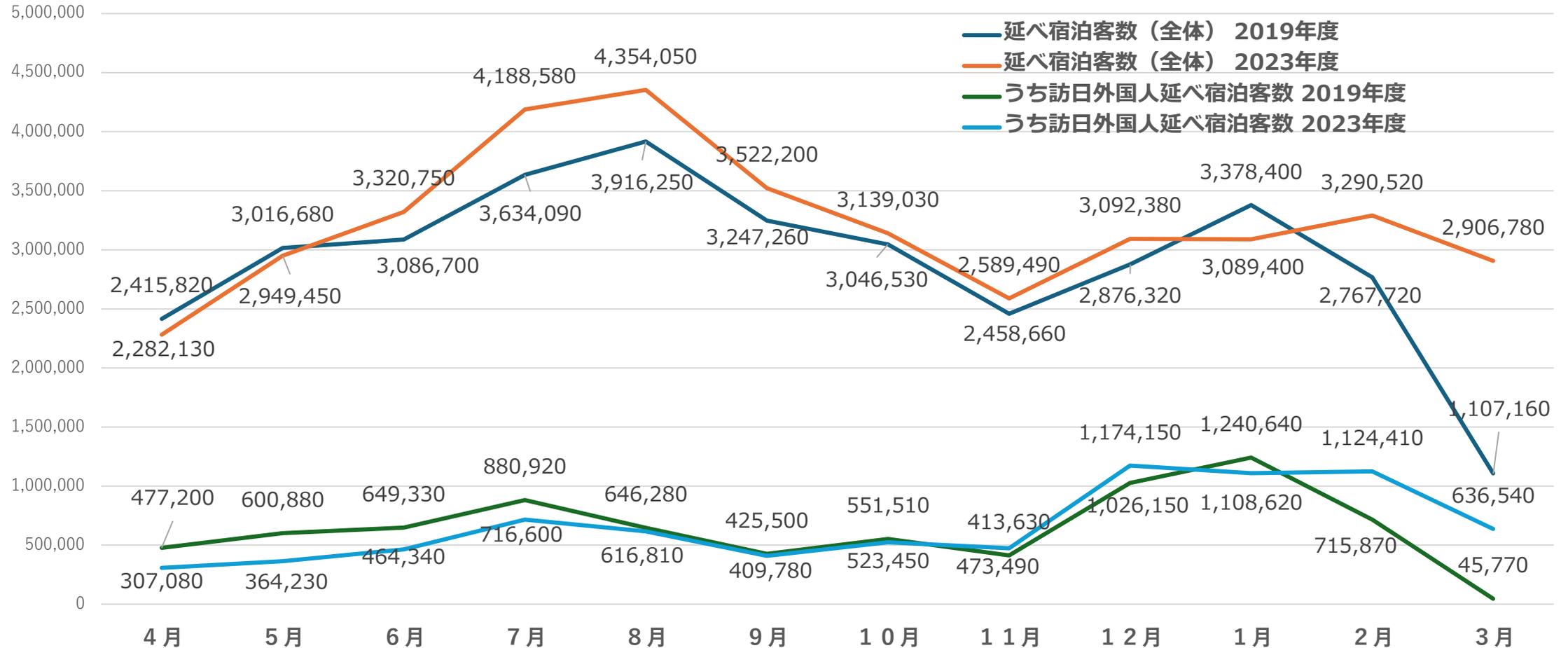
R5年度事業実施概況

北海道宿泊者数（延べ）の推移（2019年度との比較）



1. R5年度の道内の動向

■ 宿泊者（延べ）数は、6月以降コロナ禍前（2019年度）を超える実績となっている。

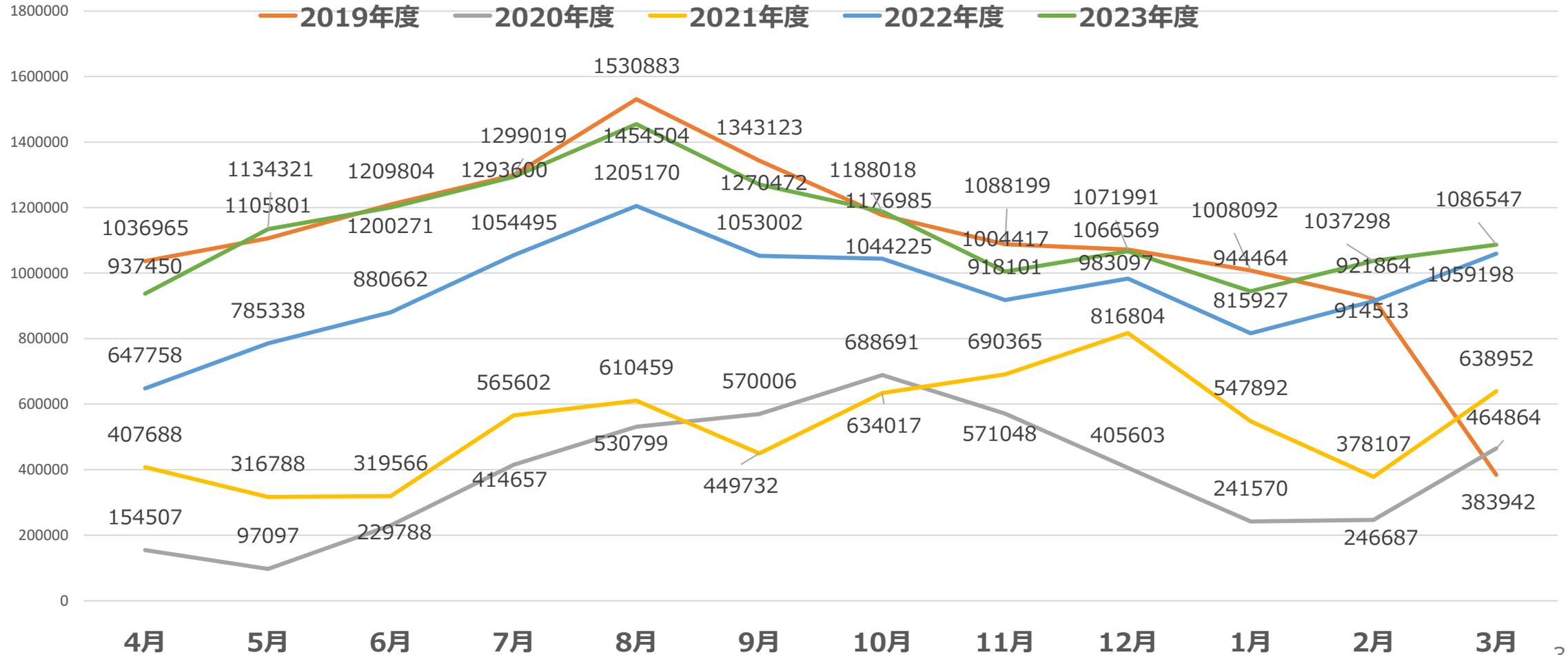


R5年度事業実施概況

1. R5年度の道内の動向

■年間を通して、コロナ禍前（2019年度）並みに来道者数（下り便）は回復傾向にある。

年月別輸送機関別来道者数の推移



R5年度事業実施概況

2. R5年度HTOの主な事業活動

主な事業項目	主な活動内容
(観光地づくり) 人材育成・サービス向上事業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍明けの観光関係人材の育成強化 (SNS情報発信、データマーケティング研修、語学研修等) ・安心・安全な旅行を提供するための環境整備 (空港等バリアフリー観光案内窓口の開設検証)
(観光地づくり) 商品開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な観光地域づくりに向けた伴走支援 (ワインツーリズム、ケア・ツーリズム、ナイトタイムエコノミーの推進、道内登録DMO (地域・地域連携) への支援)
(マーケティング) 基盤整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新規 来道外国人観光客人流データの把握と情報共有 ・新規 住民 (道民) 満足度調査の実施
(プロモーション) 国内プロモーション事業	<ul style="list-style-type: none"> ・全国旅行支援「HOKKAIDO LOVE!」の利用促進施策 ・北海道の酒、ウェルネス等をテーマした媒体情報発信
(プロモーション) 海外プロモーション事業	<ul style="list-style-type: none"> ・欧・米・豪へのレップの設置。国の嗜好に合わせた情報発信 ・コロナ禍前、来道実績のある東・東南アジア (成長市場) へのプロモーション
(プロモーション) アドベンチャートラベル事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ATWS2023北海道/日本の開催 (9月) ・上記アジア初開催を契機とした、北海道でのATの推進
国費事業 HTO独自事業	<ul style="list-style-type: none"> ・観光再始動事業 (国費) ・さっぽろ連携中枢都市圏における「旅先納税」導入 (2月) (観光庁・地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業)



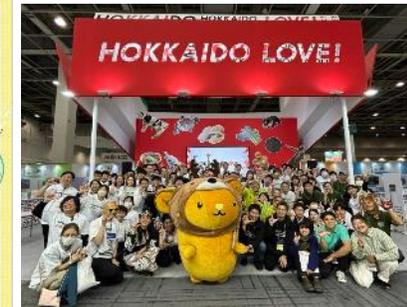
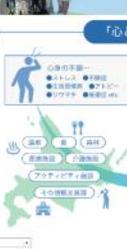
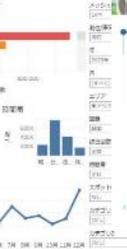
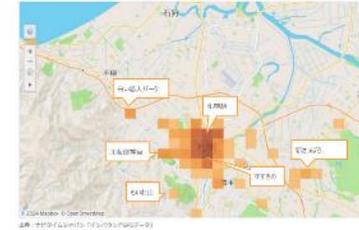
たきのうえユニバーサルツーリズム商品造成事業



札幌市における滞在場所 (2023年)

北海道の観光統計データサイト

メッシュ別滞在状況 (スポット情報あり)



ユニバーサルツーリズム推進事業（23001）

1. 事業目的

誰もが安全・安心に道内旅行を楽しむことができる環境を整備するため、あらゆる旅行主体にとっての障壁の認識や、道民が主体となった「おもてなし」の機運醸成により、誰にでも優しい「観光立国・北海道」としての受入体制整備の推進を図る。

2. 事業概要（予算：19,873千円）

- ①バリアフリー観光情報サービス・情報発信強化
宿泊・飲食・体験・土産品販売等の事業者を対象としたバリアフリーの取組に係るアンケート調査の実施
- ②バリアフリー対応ノウハウ習得研修、パブリシティの実施
バリアフリー対応セミナー、実技研修の開催（5回）、メディア発信等
- ③ホスピタリティ向上
子ども向け啓発活動「旅育セミナー」、「親子で「旅育」にチャレンジ！無料バスツアー」開催（参加対象：道内小学校低学年と保護者）
- ④やさしい日本語の活用セミナー開催（ハイブリッド開催）
- ⑤食のユニバーサル啓発事業
ベジスウィートオンラインスクール開催、大豆ミートを使用した料理の啓蒙(オータムフェスト会場でのレシピの配布)とアンケート調査の実施
- ⑥WEBサイト「WELCOM HOKKAIDO ムスリム&ベジタリアンガイド」の更新

3. ポイント

産官学16団体においてワーキングチームを立ち上げ、空港案内機能等サービスの強化、車いす乗捨てシステム、空港内導線のユニバーサル化について議論。バリアフリー観光窓口の開設に向けて今後も検討。



ユニバーサルツーリズム推進事業（バリアフリー対応ノウハウ習得研修）
「バリアフリー対応ノウハウ習得研修」のご案内
バリアフリー観光におけるサービスの充実や向上のため、観光関連事業者・自治体等を対象に、観光施設等におけるハード面および、サービスのノウハウや情報発信の充実などのソフト面を一体的に実施するため、これらのノウハウを習得するための研修会を開催します。
定員30名
参加費無料
観光介助士「中級」講座 ～観光介助士「中級」の資格を取得できます～
日時：11月23日（水・祝） 10:00～15:30 ※昼休憩あり
会場：北海道立道庁運動センター 4階2F 510会議室（札幌市中央区北2条西7丁目）
＜研修内容＞
(1) 第一部 産学（北海道の冬の観光におけるユニバーサル対応について等）
(2) 第二部 認知体験ワークショップ（事例での体験を予定） ※動きやすい格好で参加ください。
(3) 第三部 意見交換会（障がい当事者講師との意見交換会）
*観光庁「観光施設におけるバリアフリー設備設置」の取組推進に賛同した事業者となっております。以前に観光介助士講座受講済みも参加可能。研修内容は一部変更になる場合がございます。

北海道観光協会・観光関連事業者・観光ガイド・観光関連学科の学生向け
北海道を観光中の外国人をサポートしよう！
やさしい日本語の活用セミナー
参加無料
定員30名
申込要
日時：10月14日
会場：10:30～19:00 ワーキングスペース
参加無料
ベジスウィーツオンラインスクール
日時：2023年10月14日
第1回 / 10:30～ワーキングスペース
第2回 / 19:00～ワーキングスペース
講師：安藤 聖代 氏
ベジスウィーツオンラインスクール
日時：2023年10月14日
第1回 / 10:30～ワーキングスペース
第2回 / 19:00～ワーキングスペース
講師：安藤 聖代 氏

4. 事業成果・課題等

- ①339件のアンケート回答（R6年度のバリアフリー観光に係るWEBサイト情報更新に活用予定）
- ②観光関係者155名が観光介助士の資格を取得
- ③バスツアーに92名が参加
（参加希望者約2,500名（応募数1,269組））
- ④受講者68名（札幌国際大学の留学生も活動に協力）
- ⑤オンラインスクール受講者61名、約1,000名からアンケート回収
- ⑥136件を最新情報としてWEB掲載

おもてなし推進事業（道観光誘致推進事業）（23002）

1. 事業目的

- ・観光関係者向け研修会を開催、インバウンド観光客受入等のおもてなしの向上を図る。
- ・北海道観光ボランティア連絡協議会の活動に対する支援を行い、観光ボランティア活動の推進を図る。

2. 事業概要（予算：1,350千円）

①ボランティアガイド向け観光客受入研修会の開催

- (1) 地域力を高める実践型スキルアップ研修（小樽）11月20日～計3回
- (2) アイヌ文化研修会in帯広（11月28日）
- (3) アイヌ文化研修会in札幌（11月29日）

②北海道観光ボランティア連絡協議会への支援

- (1) 観光ホスピタリティ全道大会in旭川の開催（11月2日）
- (2) 「会報クリスタル」の発行支援（年1回、部数1,100部）

3. ポイント

ボランティアガイドの高齢化（成りての減少）、コロナ禍後のガイド活動の在り方について議論が必要。



4. 事業成果・課題等

①（1）実績：

受講者数：45名（延べ人数）

内容：おもてなしスキルアップ研修

【1部】環境変化に伴う新たな旅のスタイルの考察

【2部】媒体特性を生かした「6W2H」選定の重要性

【3部】セールスアピールシート作成ワークショップ

（2）実績：帯広23名、札幌29名受講

②実績：

参加者数：119名

功労者表彰：7名のボランティアガイドの活動を顕彰

基調講演、ミニエクスカーション、交流会

観光人材確保・育成事業（23003）

1. 事業目的

インバウンドを含めた観光需要の回復に対応できる人材の確保と能力向上を目的とし、北海道観光の受入体制整備を推進する。

2. 事業概要（予算：25,779千円）

①オホーツク広域観光“共創”セミナー（5回開催）

オホーツク管内で実施の構想があった「リレーセミナー」を実施。「観光概論」「SNS等情報発信」「データ活用」「広域観光ルート造成」「プロモーション」研修テーマとして地域の意見に沿った形で実施。

②各地での研修内容・開催市町村

- ・観光×ChatGPT_AIと協業する最前線マーケティング<札幌市>
- ・“時間”と“距離”を超えてでも訪れたいくなる豊富をブランディングする<豊富町>
- ・ATを軸とした広域観光が生み出す価値を学ぶ<帯広市>
- ・短時間集中インプット&ディスカッション 観光“オムニバス”セミナー<新ひだか町>
- ・あたりまえ”が感動を生む！渡島エリアの魅力「見つけ方」と「活かし方」<函館市>
- ・人流データの見方／活かし方を学ぶ観光データマーケティングセミナー<泊村>

③外国人ガイド育成研修

- ・外国語ガイド技能研修（eラーニング研修（試験対策、初級、上級））
- ・ツアー帯同研修（室蘭、有珠山コース）
- ・模擬バスツアー（ニセコ・余市コース、網走・釧路・知床コース）
- ・マッチングイベント（通訳案内士と観光事業者、旅行会社）

3. ポイント

地域毎の課題に沿った、オーダーメイドの個別研修やワークショップを開催。



4. 事業成果・課題等

- ①②観光の3要素である「つくて、売って、受け入れる」をコンセプトに、「みんなで観光1UPセミナー」を道内12か所で実施。（延べ282名参加）
- リアル受講者200名の目標に対し、239名（達成率119.5%）

全体の参加について	
試験対策コース	55名
初級者向けコース	341名
上級者向けコース	93名
模擬バスツアー	
第1回	34名
第2回	29名
第3回	34名
ツアー帯同研修（10月24日-25日）	6名
ツアー帯同研修（1月31日-2月4日）	10名
マッチングイベント	
観光企業	14社
通訳案内士	23名
マッチングウィーク 5 Days	13名

インバウンド特性を活かした市場(国)別の研修はニーズがない。
オーダーメイド形式の研修は、地域での様々な課題対応という観点から、引き続き実施すべき。

地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業（23004）

1. 事業目的

多様化する観光客ニーズに対応するため、地域の観光協会等が実施する新たな商品づくり等の取り組みを支援し、地域経済の活性化を図る。

2. 事業概要（予算：180,980千円）

①支援概要 採択事業 計59事業

- ・DMO枠（補助上限1,000万円）8事業
 - ・地域単独（補助上限200万円）34事業
 - ・広域連携（補助上限400万円）17事業
- （取組テーマ（内訳））

ワイン・ツーリズムの推進 6事業 ケア・ツーリズムの推進 8事業
ナイトタイム・エコノミーの推進 7事業 ワークেশョンの推進 3事業
観光DXの推進 5事業 ゼロカーボンの推進 4事業
アドベンチャートラベルの推進 9事業
本道の特色を活かした観光地づくりの推進 17事業

②事業進捗確認及び職員派遣による側面支援実施

③外部アドバイザー（メディア関係者、旅行会社社員、学識経験者、コンサルタント等）の派遣

④採択団体向け「情報発信支援事業」

SNSによる情報発信セミナーの実施、専門家によるコンサルティングと実証事業の実施。

⑤成果報告会の実施

3. ポイント

新たな旅のスタイルに対応するため、ワイン・ツーリズム、ケア・ツーリズム、ナイトタイム・エコノミーを重点支援項目に追加。



4. 事業成果・課題等

採択事業の成果報告を受け、審査委員の評価を得て、優良事例を選定。

(ア)DMO枠部門

- 【最優秀賞】大雪カムイミナタDMO
- 【優秀賞】小樽観光協会
- 【特別賞】倶知安観光協会

(イ)広域連携事業部門

- 【最優秀賞】帯広アイヌ古式舞踊等観光コンテンツ化推進協議会
- 【優秀賞】日本UD観光協会
- 【優秀賞】一般社団法人帯広観光コンベンション協会
- 【特別賞】道東4地区観光連盟連絡協議会

(ウ)地域単独事業部門

- 【最優秀賞】厚真町観光協会
- 【優秀賞】芝ざくら滝上公園地域づくり拠点実行委員会
- 【特別賞】北海道三笠観光協会

道観光誘致推進事業（地域プロモーション事業）（23005）



1. 事業目的

道内各地域の特性を生かしたプロモーション事業を4地域分科会において実施。

2. 事業概要（予算：60,000千円）

内容：国内外プロモーション、パブリケーション、地域提案事業等
（以下、各地域分科会での主な事業内容）

①道央地域分科会

冬期バス周遊促進事業

期間：令和6年1月11日～3月10日（2月4日～11日を除く）

内容：登別・洞爺湖温泉とニセコ・ルスツと結ぶツアーバスを実証運行。

②道南地域分科会

クルーズ誘致プロモーション事業

期間：令和6年2月8日

内容：函館市、函館国際観光コンベンション協会、函館港利用促進協議会との共催。国内外の船舶や旅行代理店に対するセミナー・プロモーション

③道北地域分科会

管内連携・海外国際路線誘致プロモーション事業

訪問先：台湾、香港、韓国、豪州、ベトナム

内容：セミナー、交流会、表敬訪問（セールスコール）

④道東地域分科会

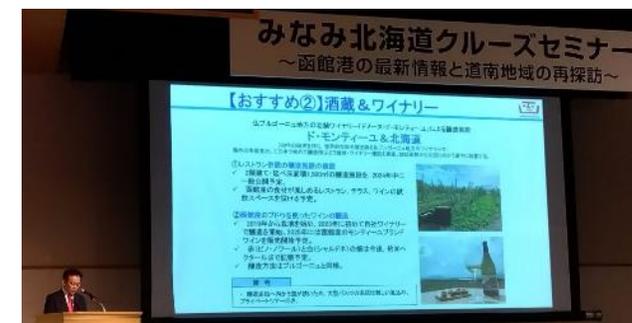
ひがし北海道観光素材説明会開催

期間：札幌（令和5年4月24日）、東京（令和5年4月26日）

内容：ひがし北海道の観光素材の説明、旅行会社等との商談会開催

3. ポイント

新型インフルエンザ感染症等の5類感染症移行により、国内外への本格的なプロモーション活動が活発化。



4. 事業成果・課題等

①道央地域分科会 冬期バス周遊促進事業
延べ283人利用。（計52日間運行。インバウンド観光客が67%）

②道南地域分科会
R6年度（4月～11月）クルーズ客船59隻（延べ）が、函館入港予定。

③道北地域分科会
ジェットスター旭川＝成田線の新規就航（令和5年12月1日）

④道東地域分科会
国内観光客向けに、毎年観光に対する意識や行動志向、地域コンテンツ評価の変化の調査・分析調査の実施し、マーケティングに基づいたプロモーションを展開。（旅行会社、メディア、地元観光関係者に素材説明会等で共有）⁹

広域観光周遊促進事業（観光庁・北海道）（23006）



1. 事業目的

地方部での訪日外国人観光客の滞在促進のため、地域が一体となって行う、滞在コンテンツの充実、受入環境整備、旅行商品流通環境整備の取り組みを支援

2. 事業概要（予算：108,520千円）

①地域連携事業 <観光庁予算事業>

- ・胆振地域：登別洞爺広域観光圏内におけるニセコ・倶知安地域のロングステイ訪日外国人の誘客を目的としたカセットプラン販売促進事業
- ・十勝地域：ナショナルサイクルルート「トカプチ400」を契機とした観光誘客事業
- ・後志地域：北しりべし・ウェルネスツーリズム観光資源を活用した周遊旅行促進事業
- ・上川ひがし地域：大雪エリアにおけるアドベンチャートラベラー向けセルフガイド環境整備事業

②地域連携事業 <道費予算事業>

- ・宗谷地域：アフターコロナに向けたコンテンツ磨き上げ・モデルコース造成事業
- ・空知・石狩地域：北海道ボールパークF ビレッジを活かした周遊ツアー造成事業
- ・釧路・根室地域：コロナ後の旅行形態の変化を見据えた周遊促進事業
- ・オホーツク地域：ナイトタイムエコノミーを活用した情報環境整備事業

3. ポイント

令和6年度は観光庁の制度変更に応じた、応募方法で実施



訪日外国人受入勉強会

WAO!

北海道では、本格的にインバウンド観光客が押し寄せてきている中、アジア圏からのお客様の他、欧米圏マーケットからの誘客施策の一つとして、既に欧米圏から訪日観光客が訪れ、長期滞在されているニセコエリアから、北海道の他地域への誘客を図る取組を実施しています。

本研修会は、アジア圏のお客様と欧米圏のお客様のニーズや考え方の違いなど、おもてなしをする上での基礎的な知識や、ガイディングをする際に気を付けたいポイントなど、欧米圏のお客様の満足度を向上するための受入体制について学びます。

【講師】
佐藤 好美(さとう よしみ)

生まれも育ちも札幌、生粋の道産子。大学時代にファストフードレストラン、靴土卸売店でアルバイト、それまで興味なかった接客業に目覚める。その後、札幌市内の有名ホテルでサービス・販売経験を、リゾート会社で接客・企画などを経験。オーストラリアの旅行会社への転職を机に海外が大好きとして勤務。現在は、従業員として国際旅行、海外旅行の他、インバウンドの英語ガイド・アシスタント業務を担当している。インバウンド市場では、シンガポール、オーストラリア、インドネシア、ベトナムなどのアジア圏の他、ヨーロッパ、北米、オセアニアからの訪日客の増加を機に、欧米圏の市場から、2007年に日本語研修会講師を務め、欧米圏の市場に、お集まり日本訪問者として勤務した経験を持つ。

訪日外国人受入勉強会

4. 事業成果・課題等

- ・胆振地域：OTA掲載用多言語整備・OTA商品掲載・販売 25商品
- ・十勝地域：旅行会社、OTAへ掲載(5商品掲載)
- ・後志地域：WEBサイトへの掲載、旅行会社等へのメール配信95件
- ・上川ひがし地域：セルフガイドコース設定6件、改善点の把握 50件
- ・宗谷地域：OTAへの掲載数 7件
- ・空知・石狩地域：コンテンツ・ツアーの造成・販売 (コンテンツ20件、ツアー5件)
- ・釧路・根室地域：R4年度及びR5年度に造成した周遊パス (OTA掲載 4件)
- ・オホーツク地域：OTA掲載 2件

1. 事業目的

マーケティングデータの収集・分析等を実施するとともに、持続可能な観光地域づくりに取り組む。

2. 事業概要（予算：44,264千円）

①北海道来訪者満足度調査

道内観光客、道外観光客、外国人観光客の属性や旅行実態、旅行の期待度や満足度及び観光産業経済効果を調査・分析。

（道内観光地や交通結節点等（103ヶ所）で、「自記入」「面接聴取」「WEB回答」を要請）

②データ連携を活用した観光情報の発信

（WEBサイト（HL！）を活用したマーケティングデータの収集・分析等実施）
外国語サイトと日本語サイトをデータ連携、観光情報データベースを共通化し、同一のシステム、データベース、サーバーの運用で業務効率化、コストダウンを図る観光DXの実施。地域連携DMO（千歳観光連盟）とのデータ連携を実施。

③北海道観光に対する住民満足度調査

居住地満足度（住民の地域への「愛着」や「誇り」）、社会的満足度（観光客への評価・観光地としての居住地への評価）、経済的満足度（観光が地域にもたらす経済面的恩恵への評価）の3分野で道民に調査を実施。

④観光需要予測事業

インバウンド位置情報データ（人流データ）を月次で取得し、DMP（データマネジメントプラットフォーム）に格納

（※HTO会員が閲覧、データの利活用が可能）

コロナ後のインバウンド観光客の把握、今後の戦略策定等に活用

3. ポイント

コロナ禍以降、様々なマーケティングデータの収集・分析を実施し、データマネジメントプラットフォーム（DMP）に格納。観光関係者への利活用を促す。



4. 事業成果・課題等

①北海道来訪者満足度調査数

道内客1,638件、道外客1,713件、外国人客1,178件、(合計4,529件)
(目標 道内客1,500件、道外客1,500件、外国人客1,000件 計4,000件)

②データ連携を活用した観光情報の発信

日本語サイトのコンテンツ1,379件とデータ連携したコンテンツ数
英語553件、繁体字507件、簡体字485件、韓国語371件計1,916件

③北海道観光に対する住民満足度調査

居住地、社会的、経済的3分野の中で、社会的満足度（特に観光関連従事者）が低いことが判明。今後の指標・目標として活用が可能。

④観光需要予測事業

2019年（コロナ前）の位置情報データと比較が可能となり、自地域を訪れるインバウンド観光客の国（地域）ごとの変化も把握が可能

誘客促進強化事業（国内）（23008）

1. 事業目的

道内地域と連携し、国内（東・名・阪）をはじめ、地方中核都市で観光情報交換会やリアルプロモーションを実施し、北海道への誘客促進強化を図る。

2. 事業概要（予算：355,566千円）

①北海道観光情報交換会

マスクミヤや記者、旅行会社へZoomやYoutube Live配信でオンライン開催

②メディアタイアップ事業

テーマに沿ったテレビ、ラジオ、雑誌による情報発信の実施

③大規模イベント出展

ツーリズムEXPOジャパンをはじめ、各種イベントへの出展

④他県連携相互送客事業

直行便就航エリア（茨城、静岡、新潟、富山、石川、長野、兵庫、岡山、広島、香川、愛媛、福岡、熊本、沖縄）を対象とした相互送客促進

⑤東北プロモーション(仙台駅構内イベント)

⑥旅行商品造成

羽田、関西、中部空港出発の冬期のエスコート商品の新聞広告掲載費助成

⑦交通連携プロモーション（閑散期搭乗キャンペーン）

「旅たび来てね！HOKKAIDO LOVEキャンペーン」

⑧宿泊事業者と連携した道産水産物需要喚起・誘客促進事業

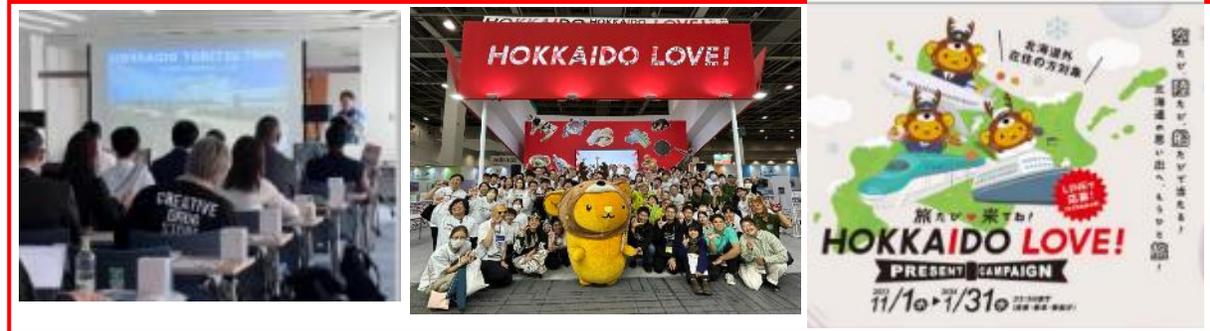
中国による日本の水産物輸入を全面停止措置対策

⑨Web・SNSプロモーション 北海道公式観光LINEアカウントを活用

⑩PRツール作成 北海道マップ、観光ポスター、各種プロモーションPRツール

3. ポイント

コロナ明けの需要喚起策から、テーマ性のあるコンテンツ情報発信など旅行者の趣味・嗜好にあった提案が今後求められる。



4. 事業成果・課題等

①計4回オンライン配信・総視聴者数1,571人

（東、名、阪リアル配信・計3回・メディア参加者114名）

②【前期】15社（雑誌5、テレビ局4、ラジオ局4、新聞2）

【後期】25社（雑誌11、テレビ局9、ラジオ局4、新聞1）

補助額：48,458千円広告換算額：約7億円

③ツーリズムEXPOジャパン（4日間合計）148,050人の来場

④マスクミ・旅行会社向けに北海道観光情報交換会・セールスコール

⑤LINE新規登録者：1,062人

⑥23商品申請、送客実績合計3,805名

⑦キャンペーンへの応募総数4969名

⑧9,413名の応募（抽選でデジタルギフト券、道産ホタテプレゼント）

⑨138ヶ所のエリア・地域の取材、記事配信：76回、総配信数878万回

令和5年度新規友だち登録数88,861名

誘客促進強化事業（海外PR）（23008）



1. 事業目的

来道インバウンド観光客の回復が期待される中、メインターゲットである欧米豪を中心に、北海道の認知度向上を目指す。

2. 事業概要（予算：150,210千円）

- ① 欧州市場 欧州での北海道観光レップの設置
ニュースリリースの配信・現地セールス・現地旅行博代理出展・セミナー開催等
記事掲載（イギリス・フランス・ドイツ）・動画制作
現地旅行会社・メディア招聘（イギリス・フランス・ドイツ・スペイン・イタリア）
- ② 米国市場 米国西海岸、東海岸に北海道観光レップ設置
ニュースリリース&プレスリリースの配信<全米>
北海道オンライン映像制作（ワイン・ケア・ナイト・ATを組み合わせた3本の映像及びSNS等への広告配信、米国内開催の旅行博出展、北海道観光BtoBセミナーの開催、米国内観光商談会出席）
- ③ 豪州市場 シドニーに北海道観光レップを設置
ニュースリリース&プレスリリースの配信
北海道観光BtoBセミナーの開催
豪州内観光商談会出席、AT顧客への取組（ATWS参加者のヒアリング等）
- ④ 中国市場
「WORLD WINTER SPORTS (BEIJING) EXPO 2023」への出展
北海道観光セミナー（BTOB）の企画開催（北京、成都、広州、上海）
セールスコールの実施、富裕層向け旅行会社、OTAの招請
Trip.comと連携したFIT向け北海道観光情報の発信
- ⑤ 北海道スキープロモーション協議会 スキー旅行博への出展
- ⑥ SNSを活用した北海道観光情報発信事業

3. ポイント

観光消費額の高い欧米豪市場、中国富裕層へのアプローチは、今後も継続的に必要。



4. 事業成果・課題等

- ① 実績 FB、Google動画広告視聴100万回（英語、ドイツ、フランス）
- ④ 実績 旅行商品造成販売（2023年12～2024年2月）57本887名
- ⑥ 実績（SNS）
 - ・中国(簡体字) Weibo52,200（前年+864人増）
 - ・台湾(繁体字) Fb85,021（前年+13,070人増）IG13,310（前年+5,658人増）
 - ・タイ(タイ語) Fb77,095（前年+9,970人増）、IG4,387（前年+959人増）
 - ・韓国(韓国語) Fb19,110（前年+667人増）、IG6,679（前年+1,523人増）
 - ・インドネシア語 Fb160,784（前年+10,141人増）、IG5,085（前年+89人増）
 - ・東南アジアFb116,680（前年+12,902人増）、IG5,760（前年+1,116人増）
 - ・フランス語 Fb7,239（前年+2,119人増）、IG2,389（前年+205人増）
 - ・欧米豪(英語)Fb9,807（前年+4,010人増）、IG3,884（前年+676人増）

北海道旅行割引事業（R4年度繰越明許）（23009）



1. 事業目的

全国旅行支援等の旅行需要喚起施策の利用を促進させるため、テレビやWeb媒体、既存メディア、交通事業者、旅行会社、YoutubeやLINEをはじめとしたSNSなどを用いて北海道の魅力的な観光情報と全国旅行支援「HOKKAIDO LOVE割！」をPRし北海道誘客へ繋げる。

2. 事業概要（予算：199,140千円）

①メディアプロモーションによる誘客促進事業

テレビCM展開（広告素材にTEAM NACSを継続起用）

YouTubeインストリーム広告、Instagram動画広告、TVer動画広告

②アプリインストール促進プレゼントキャンペーン事業

③旅行需要喚起キャンペーン（食・酒の魅力発信）

・番組「おさんぽ北海道～この旅はお世話になります」（HBC制作）全国放送

・フォーリンデブはっしーさん、髭男爵ひぐち君さんの2名を起用しプロモーション動画の制作（YouTubeにて配信）

・30秒タイプの動画（YouTube、LINE、Facebook、Instagram）
広告配信

④旅行需要喚起キャンペーン（サウナの魅力発信）

番組「ウドちゃんの旅してゴメン」（全国放送）5月21日、28日放映

⑤テレビ番組タイアップ（道内・海外）

全道各地のサウナPR動画（4本）制作、放映

3. ポイント

全国旅行支援「HOKKAIDO LOVE割」等の利用促進のため、各種媒体を活用し、道内外に情報発信。



4. 事業成果・課題等

①実績

関東・関西エリア（3局計）145本／推定リーチ数 約38,829千人
北海道エリア（2局計）54本／推定リーチ数 約2,925千人

③実績

Facebookはフォロワー数 314 件、Instagram は 1,324 クリック、LINE 広告視聴数 8,482,169、YouTube 視聴数 430,286をそれぞれ獲得

④実績

平均視聴率（東海3県）1回目3.3%、2回目3.4%
（到達人口数約76万人）

⑤実績

テレビ番組YouTube配信到達人口数約55万人、
広告配信（東名阪）表示回数191万回、視聴回数41.2万回

北海道教育旅行活性化事業（23010）

1. 事業目的

道内の教育旅行受入体制整備や商品づくり、セールスプロモーションなど地域と連携した取り組みで、教育旅行活性化を図る。

2. 事業概要（予算：23,240千円）

- ①招へい（視察）事業（教員、教育旅行関係者）
- ②アドバイザー派遣
- ③教育旅行講習会（道内自治体、事業者、関係者向け）
- ④セールス活動
- ⑤教育旅行説明会・相談会
- ⑥教育旅行説明会
- ⑦北海道教育旅行ガイドブック改訂
- ⑧北海道訪日教育旅行促進協議会との連携事業

3. ポイント

新学習指導要領の改訂による探求型修学旅行の内容変化に対応したコンテンツづくりの開発、現在あるコンテンツの磨き上げが必要



4. 事業成果・課題等

- ①実績：関東公立中学校修学旅行委員会 18名
東京都中学校校長会教育旅行対策委員会 5名
修学旅行研究会 15名
日本修学旅行協会 3名
下見受入 全国14校 24名
- ②実績：全国18校へ訪問
（大阪、滋賀、兵庫、宮城、福島、埼玉、山形、福岡等）
- ③実績：帯広、根室、紋別
- ④実績：学校、旅行会社、教育委員会等146軒訪問
- ⑤実績：山形、名古屋、横浜、大阪、東京で旅行会社、教員向け開催
- ⑥実績：福岡、石川、富山、埼玉、兵庫で旅行会社、教員向け開催
- ⑦実績：1,800部
- ⑧実績：台北での教育旅行説明会実施

北海道どさんこ旅サロンの運営・利用促進事業（23011）

1. 事業目的

首都圏における北海道観光の情報発信拠点である「どさんこ旅サロン」を運営し、北海道の観光情報をタイムリーに提供することにより、首都圏からの誘客を促進する。

2. 事業概要（予算：12,720千円）

施設名称 北海道・さっぽろ観光情報プラザ（愛称：どさんこ旅サロン）
設置場所 東京都千代田区有楽町2丁目10-1 東京交通会館3階
営業日 月曜～金曜 11:00～19:00（勤務時間は10:45～19:00）
運営体制 2名常駐（マネージャー1名、スタッフ2名 シフト制）
業務内容 観光情報の提供・相談対応、観光パンフレット等の配布、営業活動
受託事業者 株式会社ツーリストエキスパート
受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

その他：接客対応のほか、首都圏内にある「どさんこプラザ」、北海道産の食材を扱う飲食店等を定期的に訪問し、北海道ガイドマップの配架やポスター掲出に取り組んだ。

3. ポイント

R5年度包括外部監査の結果を受け、令和7年度以降の事業のあり方について、北海道および札幌市と検討する。



4. 事業成果・課題等

月	来店者数 ()内 前年比	相談件数 ()内 前年比	電話件数 ()内 前年比
4月	458(110.9%)	101(126.3%)	58(87.9%)
5月	560(116.2%)	149(155.2%)	74(88.1%)
6月	586(100.0%)	134(102.3%)	69(65.7%)
7月	448(110.1%)	86(106.2%)	73(130.4%)
8月	532(119.3%)	92(121.1%)	61(82.4%)
9月	371(57.1%)	61(89.7%)	48(59.3%)
10月	300(76.9%)	42(60.9%)	49(108.9%)
11月	230(79.6%)	33(63.5%)	45(112.5%)
12月	258(47.8%)	29(78.4%)	30(46.2%)
1月	249(81.6%)	46(83.6%)	38(82.6%)
2月	244(73.7%)	46(109.5%)	46(135.3%)
3月	328(87.5%)	59(67.0%)	47(94.0%)
計	4,564(87.5%)	878(100.3%)	638(85.5%)

1. 事業目的

全国各都市で開催される、「北海道の物産と観光展」において観光PRを行い、道産品に関心、又は購買意欲がある多くの来場者に本道の観光の魅力を実感的に宣伝することにより、観光誘致促進を図る。

2. 事業概要 (予算: 998千円)

北海道の物産と観光展の開催 (全国26都市31会場)

- ・PRツールの提供 (全会場)
観光展タイトルパネル、自治体観光PR用DVD (1枚×31会場)、北海道観光ポスター(4種)、北海道観光ガイドマップ、自治体観光パンフレットを会場設置(配布期間令和5年9月～11月)
- ・ノベルティグッズの提供 (重点6会場のみ)
北海道観光展への誘客に繋げるため、物産展来場者に配布するノベルティ「キュンちゃん卓上カレンダー」1,800部を製作し、重点6会場に提供。
- ・観光ポスターパネル展示 (重点6会場のみ)

※令和5年度重点6会場

- ① 東武百貨店船橋店 (千葉県船橋市)
- ② 伊予鉄高島屋 (愛媛県松山市)
- ③ 名鉄百貨店本店 (愛知県名古屋市)
- ④ 水戸京成百貨店 (茨城県水戸市)
- ⑤ 藤崎百貨店 (宮城県仙台市)
- ⑥ 鶴屋百貨店 (熊本県熊本市)

3. ポイント

会場で配布されている各地域のパンフレットについては、今後電子パンフレットへの誘導など検討が必要。



4. 事業成果・課題等

北海道に関心のある多くの来場者にアピール出来る点で物産展と連動したプロモーションは訴求効果が高く、更に積極的かつ集客力のある展開が必要である

既に電子パンフレットへの誘導について取り組んでいるが、PRツールの製作費高騰もあり、今後は更にデジタルツールの活用について検討が必要と思われる。一方ではデジタルツールに馴染みのないシニア世代に対するPR方法についても検討、改善の必要がある。

アドベンチャートラベル推進事業（23013）

※23024ATを活用した道観光の高付加価値化推進事業を含む）

1. 事業目的

ATWS 2023の開催を契機としてAT商品の開発や情報発信を行ない、北海道のアドベンチャートラベルのブランド化を推進、商品造成に係る支援の実施により、品質向上を図る。

2. 事業概要（予算：115,726千円）

- ① Post Summit Adventureモニターツアー（北宗谷、十勝、上川、釧路）
- ② 冬季FAMツアー（アイヌ文化（道央）、ワイルドライフ（道東）コース）
- ③ ATモデルコース造成事業（WEB掲載・R5年度14コース採択）
- ④ Adventure Elevate出展（米国・メイン州ポートランド）
- ⑤ ATWS2023を活用した調査事業（PSA磨き上げ、DOAアンケート調査
ホストデスティネーションラウンジ設置、調査報告書作成）
- ⑥ ATWS2023北海道／日本への出展（9月11～14日）
- ⑦ 映像制作事業（ATWS2023の記録、冬季のAT商品動画制作）
- ⑧ ATWS2023北海道／日本 報告セミナー開催（2023年12月）
- ⑨ 商品造成に向けた国内連携事業（現地調査研究会、商談会）
- ⑩ ATポータルサイト情報発信事業（北海道ATガイドの紹介等）
- ⑪ シンガポールプロモーション事業（HTO海外事業との連携）
- ⑫ 米国LATAS旅行博出展、セールスコール（HTO海外事業との連携）
- ⑬ シンガポール、マレーシアプロモーション事業（HTO海外事業との連携）
- ⑭ AT人材の育成（野外救急救命研修、アクティビティガイド能力向上研修
サステナブル研修、スルーガイド知識・技能研修）

3. ポイント

アジア初開催のATWS2023北海道／日本の開催。
ATWS2023の開催を契機としたAT商品の更なる発展



4. 事業成果・課題等

- ⑥実績 ATWS2023北海道／日本 開催（9月11～14日）
 - ・主催：Adventure Travel Trade Association（ATTA）
 - ・参加者：64の国・地域 / 773名
 - ・PSA（プレ・サミット・アドベンチャー）：9月4～10日
道内外22コース173名参加
 - ・DOA（デイ・オブ・アドベンチャー）：9月11日
全31コース547名参加
- ⑭実績 ・野外救急救命研修（Wafa）資格取得能力研修47名、
維持講習163名修了。
 - ・アクティビティ能力向上研修（英語研修10回開催）77名受講
 - ・サステナブル研修（JSTS-Dセミナー53名、LNTレベル1インストラクター
コース53名受講・認定）

MICE誘致推進事業（23014）

1. 事業目的

本道で開催される国際的又は全国的な規模で開催されるコンベンションの誘致や円滑な開催を促す。

2. 事業概要（予算：33,022千円）

- ①国内バイヤー等を招請した北海道MICEファムトリップの実施及びMICE商談会の企画開催
- ②サステナブルなMICEコンテンツを集約したプレゼン資料の作成
- ③やさしいMICE推進に向けたアドバイザーの派遣
（セミナー開催：札幌市、旭川市、コンテンツ視察：千歳市、東川町）
- ④北海道MICE誘致推進協議会主催北海道MICE商談会in東京開催
協議会構成団体（セラー）と道外MICE関連事業者（バイヤー）のマッチング商談会
- ⑤IME2024への出展
道外・海外（旅行代理店、イベント担当者など）のMICE関連事業者との商談会
- ⑥北海道MICE誘致促進助成金交付事務

3. ポイント

北海道MICE誘致促進助成金交付事務は、R6年度よりHTOから北海道経済部観光局に業務移管。



4. 事業成果・課題等

- ①実績：道南・道央、②道北・道東（2回）
- ②実績：43コンテンツを新たに選定し、プレゼン資料作成（情報発信）
- ③実績：普及啓発セミナー 計66名参加
- ⑤実績：商談数（国内55、海外38）合計93件（R4年度は60件）
- ⑥実績：北海道MICE誘致促進助成金11件13,300千円（合計）を支給

1. 事業目的

多彩な媒体・宣伝手法を活用し、新型コロナの影響で落ち込んだインバウンド観光の需要喚起を図る

2. 事業概要（予算：34,064千円）

① ツーリストマップ、パンフレットの製作

北海道観光パンフレット（英語、タイ語、繁体字、簡体字）の修正・編集
韓国語、ベトナム語パンフレットの新規翻訳・製作

② ノベルティーの製作

キュンちゃんシール、トートバッグ、ラゲージタグ、タンブラー、真空保冷温ボトル

③ BtoB北海道観光情報発信事業

海外旅行会社及びブランドオペレーター、メディア、航空会社、JNTO等に
北海道の最新観光情報を定期的（月2回）に配信

④ バーチャル北海道事業

VRゴーグルを活用したバーチャル体験。道内の13か所の自然、体験、
イベント等の素材を製作。旅行博等で、来場者に体験。

⑤ 中国直行便再開に向けた動画編集及びSNS広告配信

3. ポイント

新型コロナ以降、本格的なプロモーション活動が再開され、各種のセールス
ツールを作成、現地でサンプリングを実施。



4. 事業成果・課題等

① 実績

英語版 2.5万部、中国語＜繁体字版／簡体字版＞・韓国語版・
タイ語版 各1万部、ベトナム語版・インドネシア語版 各5千部

③ 実績

中国：380社537件 台湾：207社314件 香港：101社119件
韓国：50社52件 タイ：147社172件 シンガポール：100社125件
マレーシア：299社339件 インドネシア：55社68件 フィリピン：55社57件
ベトナム：50社53件

⑤ 実績

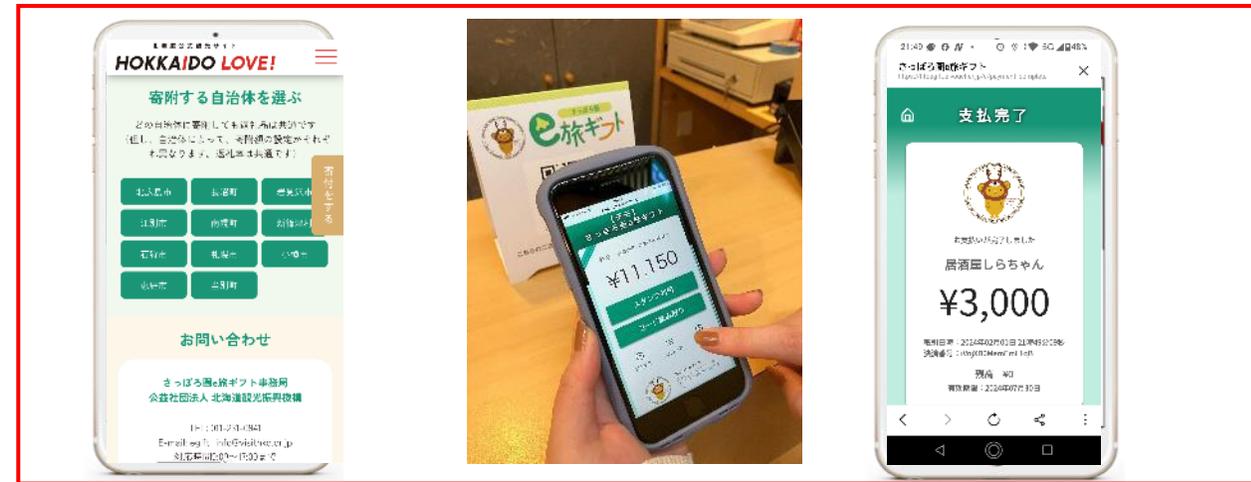
再生数100,671回、いいね数164件、コメント44件、シェア31件

1. 目的 2. 事業概要（予算：11,200千円）

名 称	さっぽろ圏e旅ギフト （広域連携による「旅先納税®」）
目 的	周遊観光の促進によるさっぽろ連携中枢都市圏 の地域経済活性化
適用範囲	さっぽろ連携中枢都市圏内11市町村 石狩管内：札幌市、江別市、恵庭市、北広島市 石狩市、当別町、新篠津村 空知管内：岩見沢市、南幌町、長沼町 後志管内：小樽市
返礼品の入手方法	上記市町村へのふるさと納税の共通返礼品として 電子ギフト発行（寄附者が任意の市町村に寄附）
寄附金額	：1万円から最大300万円まで （各市町村により、寄附額の設定が異なる）
返 礼 率	寄附金額の30%を電子商品券 「さっぽろ圏e旅ギフト」として返礼
利用出来る施設	11市町村内の加盟店 （宿泊施設、飲食店、アクティビティ等） ※4月30日現在287店舗
利用期限	寄附いただいた日の180日後
H T O の業務	加盟店募集および管理業務、精算業務、 プロモーション等
開 始 日	2024/2/1～

3. ポイント

全国2例目の広域自治体による「ふるさと納税（旅先納税）」
スマートフォン（クレジットカード）で、ふるさと納税と返礼品（電子ギフト）利用可



4. 事業成果・課題等

成果

- ・さっぽろ連携中枢都市圏（千歳市除く）11自治体と連携し実施
- ・加盟店（宿泊、飲食、体験施設）で返礼品（電子ギフト）を1円単位で利用が可能

課題

- ・旅先納税（ふるさと納税）の認知度
- ・総務省（ふるさと納税所管）の地場産品基準の厳格化

テーマ別観光促進事業（23021）

1. 事業目的

訪日意欲の高い市場に対し「食」「自然」「体験」などの観光情報に加えて「AT」「ワインツーリズム」「ケアツーリズム」「ナイトタイムエコノミー」等の高付加価値旅行をテーマにプロモーションを実施。リピーター再訪と消費額の高い旅行者の誘致・拡大につなげる。

2. 事業概要（予算：56,756千円）

① 東南アジア市場（シンガポール・マレーシア）

- ・シンガポールメディア招聘及び動画制作、高島屋30周年記念「大北海道展」における観光PR、日本旅行業協会（JATA）北海道事務局連携「北海道BTOBディナーセミナー」の開催、及びセールスコールの実施
- ・シンガポール「NATAS Travel Fair」への出展
- ・マレーシア現地プロモーションの実施

② 韓国市場

- ・旅行会社の招聘事業・北海道セミナーの実施（ソウル）、観光商談会の実施

③ ゴルフ事業

- ・シンガポール・マレーシア・中国からのゴルフ関係者招聘（道央圏）

④ ケアツーリズム調査事業

- ・「北海道のケア・ツーリズム」推進に参考となるデータの収集
既存コンテンツや素材の洗い出し、道外カスタマーニーズ調査
国内先進地調査、新たなニーズ調査、インバウンドの受け入れ調査
- ・公式観光サイト「HOKKAIDO LOVE！」（日本語）の集客強化と情報発信の精度向上

3. ポイント

HTOが、ポストコロナの3本柱と掲げるワインツーリズム、ケア・ツーリズムなどをプロモーション活動で実践的に展開。



「北海道ケア・ツーリズム」の定義

心身の充足を求めて行う旅「からだ、こころ、満たす旅」
をケアツーリズムと定義し、対象と目的別に4つのコテゴリーで構成。

1. ウェルネス・ツーリズム
2. ヘルス・ツーリズム
3. リハビリ・ツーリズム
4. レスパイト・ツーリズム

【「北海道のケア・ツーリズム」の構成】

～下記の目的を、旅先である「北海道」での滞在を通じて、果たすことができる～

状態	カテゴリー	目的
健康	①ウェルネス	健康な人を もっと 健康に
	②ヘルス	健康な人を ずっと 健康に
非健康	③リハビリ	非健康な人とその家族に 活力 を与える
	④レスパイト	非健康な人とその家族に 癒し を与える

4. 事業成果・課題等

② 実績

韓国側出席者48名（航空会社、旅行会社、マスコミ等）

③ 実績

3名招聘（北海道側20名が意見交換会参加）

④ 実績（北海道のケア・ツーリズム調査）

- ・コンテンツの洗い出し24件
- ・道外のカスタマーに対するニーズ調査451サンプル
- ・国内のケア・ツーリズム先進地に関する調査4カ所
- ・新たなニーズ調査6件
- ・インバウンド対象受入調査10件

インバウンド再興事業（23022）

1. 事業目的

コロナ前米道実績があった市場、増加傾向にあった成長市場に対し、北海道の最新観光情報の発信や現地旅行博への出展、現地旅行会社へのセミナー等のプロモーションを実施、インバウンド需要を成長軌道への回復につなげる。

2. 事業概要（予算：52,009千円）

①タイ市場

「第29回Thai International Travel Fair（TITF # 29）」出展
BTOB観光セミナー、旅行会社招聘、インフルエンサー招聘の実施

②ベトナム市場

ハロンで開催された「北海道フェスティバルinハロン」出展、ハノイB to Bプロモーション（北海道観光セミナー・意見交換会、セールスコール）

③インドネシア・フィリピン市場

インドネシア（ジャカルタ）・フィリピン（マニラ）現地BtoBプロモーション（北海道観光セミナー、意見交換会、旅行会社訪問、旅行会社招聘事業）

④台湾・香港市場

2023台北国際旅行博（ITF2023）出展、香港現地観光セミナーや、セールスコール、メディア招聘

⑤ノベルティーの制作

キュンちゃんミニタオル

3. ポイント

旅行博、セミナー（商談会）、旅行会社・インフルエンサー招聘の一連の施策を、各市場のニーズに沿ったコンテンツの楽しみ方を提案



4. 事業成果・課題等

①実績：BtoBディナーセミナー 23社38名参加

②実績：セミナー 37社54名参加

③実績：セミナー インドネシア：30社30名、フィリピン32社32名参加

④実績：台湾 ITF2023併催商談会 13社と商談
香港 BtoBランチセミナー 31社36名参加

1. 事業目的

インバウンドの本格的な回復を図るため、特別な体験や期間限定の取組等を世界に発信、モデルツアーの造成を実施、誘客の促進につなげる。

2. 事業概要（予算：22,700千円）

「HOKKAIDO LOVE!（プロスポーツと連携したラグジュアリーツアー）」

連携先：北海道、(株)ファイターズスポーツ&エンターテインメント、(株)コンサドーレ、北海道バス(株)、(株)東急百貨店

- ・コンサドーレ札幌に所属しているタイ人選手との交流
- ・試合会場での体験等の実施（札幌ドーム）
- ・エスコンフィールド北海道での試合観戦、施設内各種体験（プレミアムラウンジ等の北海道産食材を活用したディナーの実施）
- ・ディナーで提供された食材等の東急百貨店での特別販売
- ・ファイターズと北海道バスが運行するラグジュアリーバス「Fビレッジクルーザー」の活用。（移動中、北海道産ワインの提供等プレミアム感のある旅を演出）
- ・販売は、現地旅行会社が持つ富裕層顧客へのアプローチと海外OTAへの掲載、現地のスポーツ関係者への告知等。

3. ポイント

高付加価値化商品の開発、造成。（R6年度は、特別な体験の提供等によるインバウンド消費の拡大・質向上推進事業（観光庁）に事業名変更）



4. 事業成果・課題等

タイ、台湾、香港からの2～5回程度の来道経験者/20歳代～50歳代/野球・サッカー等のスポーツ観戦に関心が有り/日系企業勤務、芸能スポーツ関係者、学生、旅行関係会社勤務、公務員等/家族、友人同士、職場の同僚の参加/

旅行商品造成6件、参加人数34名（平均消費単価274,638円/人）

（総額9,337,682円）

1. 事業目的

道内全域での「交通と観光」の共創を目指し、道内の関係する事業者の理解を促進、観光との共創により地域交通の維持を図り、仕組みの構築を図る人材の育成を行う。

2. 事業概要（予算：30,000千円）

①キックオフセミナー開催

講演：「九州MaaSのこれまでの取り組みと今後の展望」

講師（一社）九州経済連合会 経営企画室 会長特命担当部長
有働 祐一氏

パネルディスカッション：道内事例の共有

②ワークショップ開催（12月～2月 計5回開催）

- ・関西MaaS講演、ミニワーク
- ・地域の価値に資するMaaSの取り組み講演、グループワーク
- ・東北MaaS・群馬版MaaS講演、グループワーク
- ・自家用有償旅客運送ノックルあさひまち講演、グループワーク
- ・北海道MaaSの今後に向けたアクションアイデアを考える、グループワーク

③フィールドワークの実施

網走市、函館市（2か所開催）

④総括セミナー開催

「DO!MaaSワークショップ」成果発表

3. ポイント

「利用者・事業者にとっての理想」と「多くの課題を有する現実」のギャップの解消。



4. 事業成果・課題等

- ・交通と観光関係者同士の関係が深まり、学び合って取り組む機運を醸成

「交通と観光の共創による北海道MaaSプラットフォーム」
参画団体・企業・自治体（以下、順不同）

札幌市・北海道・北海道エアポート(株)・HTO・北海道経済連合会
北海道索道協会・(一社)北海道商工会議所連合会
北海道地区レンタカー協会連合会・北海道中央バス(株)
(一社)北海道ハイヤー協会・(一社)北海道バス協会
北海道旅客船協会 北海道旅客鉄道(株)

- ・フィールドワークにおいてMaaSを体感、改善点を抽出。
実行性の高い施策案をワークショップで策定